

英語科

高め合い活動を通して書く力を育成する指導の研究

—「化石燃料に代わる電力源」の紹介文を書く活動を通して—

木坂香織

1 はじめに

近年、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速している。このことから、学校教育においても外国語教育を充実させることが重要な課題の一つとなっている。中学校学習指導要領¹⁾には、外国語（英語）の指導事項において、次のことが示されている。

エ 書くこと

(オ)自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

中学校段階の学習において、英文を書く際、一文一文を正しく書くだけでなく、文と文の順序や相互の関連にも注意をはらって全体として一貫性のある文章を書くことができるようになることが求められている。

しかし、書く指導においては生徒の個人差も大きいことに加え、時間の確保の問題やエラーチェックにかかる負担の大きいこともあり、計画的に指導できていないという現状がある。そこで、書き手を目の前にして、その場でフィードバックすることができるピア・フィードバックを高め合い活動として授業に取り入れることで書く力が育成されるのではないかと考えた。

ピア・フィードバックとは、「作文プロセスの中で学習者同士の少人数グループ（ペア、あるいはグループ）でお互いの作文について書き手と読み手の立場を交換しながら検討しあう作文学習活

動」である。友だちや指導者からのフィードバックにより、書く過程においての気づきが誘発されると期待できるのではないかと考えた。

また、読み手を意識して英文を書くことで、つなぎ言葉を用いるなど説得力のある一貫した文章が書けるのではないかと考え、ピア・フィードバックを取り入れて授業を構成することを考えた。

そこで本研究では、ピア・フィードバックを取り入れて「化石燃料に代わる電力源」の紹介文を書く授業実践を振り返り、ピア・フィードバックによって書く力の高まりがみられたのかどうか、成果と課題について明らかにしたい。

2 外国語科教科構想について

(1) めざす子どもの姿

今年度、外国語科の「めざす子どもの姿」を次のように設定した。

外国語や外国の文化に関心を抱き、理解しようとするとともに、様々な人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする子ども

また、「通教科的能力と関連的に育む外国語科の本質に根ざした資質・能力」を次のように設定した。

〈通教科的能力〉

・キャリアプランニング能力

異文化を理解し、自文化を見つめ直したり比較したりすることを行う中で、文化の価値や自分の生き方について考えることができる。

・人間形成・社会形成能力

英語を使って考えや気持ち、事実を伝え合いな

がら、さまざまな人とよりよい人間関係を築くことができる。

・課題対応能力

他者と関わりながら、粘り強く課題に対応することができる。めあてや目標に向かって、課題に取り組むことができ、学習したことを振り返ることができる。

以上の3点を設定し、実践を行っていった。

3 研究の方法（実践事例）

(1) 対象生徒

本学園の中学9年生1クラスの子ども40名を対象に調査を行った。小集団の数は10グループであり、各小集団の人数は、4名構成であった。

(2) 単元名

PROGRAM 8 Clean Energy Sources

(3) 実施時期

平成27年10月～11月

(4) 教材について

本単元は、風力発電や太陽エネルギーについての話題を中心に将来、化石燃料に代わる電力源にはどのようなものがあるかという点についての対話文や登場人物の発表が中心となっている題材である。言語材料としては、関係代名詞の目的格や接触節が用いられている。風力発電についての対話文や太陽エネルギーについての「大介」の説明文を読むことを通して、化石燃料に代わる電力源について考え、それぞれの利点について紹介する活動を行うのに本単元は適している。また、他者の意見と比較し、発表することを通して、将来の電力源についての考えを深めることができる内容である。

(5) 単元の目標

- エネルギーについて聞き手が理解しやすくなるように工夫してスピーチをしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- エネルギーについての自分の考えをまとまりのある文章で書く。(外国語表現の能力)
- 関係代名詞の目的格や接触節の意味・用法を理解している。(言語や文化についての知識・理解)

(6) 授業構成（全10時間）

第1次	関係代名詞の目的格 which, that の意味・用法を理解する	1時間
第2次	風力発電についての「パット」と「大介」の対話文を読み取る	1時間
第3次	太陽エネルギーについての大介の発表を読み取る	1時間
第4次	接触節についての用法を理解し、さまざまな電力源について読み取る	1時間
第5次	化石燃料に代わる電力源についての紹介文のトピックを考える	2時間
第6次	トピックについての調べ学習を行う	1時間
第7次	化石燃料に代わる電力源についての紹介文を書く	2時間
第8次	紹介文の発表を行う	1時間

(7) 生徒観について

英語の学習に関するアンケート（平成27年10月実施 n=40）を行ったところ、英語の学習が好きだとの回答は58%、どちらでもないと回答した生徒は32%、好きではないと回答した生徒は10%であった。また、紹介文やスキットなどまとまりのある英文を書くことが好きだと回答した生徒は50.5%、どちらでもないが45%、好きではないと回答した生徒が4.5%だった。このことから、書く活動では与えられたタスクに対してまとまった英文を書くとはできるが、どちらでもないという回答が多く、進んでまとまった英文を書こうとは思っていない生徒がいることが窺われる。

(8) 指導にあたって

指導に当たって内容的にまとまりのある文章を書くために、ライティングの指導工夫として5つあげる。

- ① モデルとなる文章の提示：書くことに粘り強く取り組ませる手立てとして、教科書本文の

大介の文をモデルとして示し参考にさせた。

- ② ワークシートの工夫：段階的に紹介文が書けるようスモールステップで取り組むことのできるワークシートを作成した。
- ③ マッピングの活用：マッピングをさせることによって思考を整理し、文章構成を考える手助けとした。
- ④ 辞書、インターネットの活用：辞書やインターネットを使用し、テーマについての調べ学習を行い、知識を深めさせた。
- ⑤ 高め合い活動（ピア・フィードバック）：グループでお互いの紹介文を読みあうことでより説得力があり、内容的にまとまりのある文章が書けるように意見交流をさせた。

(9) 授業の実際

ピア・フィードバックを通して生徒の英文を書く力がどのように高まっていったのかについて生徒が記入したワークシートを例として思考過程がどのように広がっていったかを示しながら分析する。

① モデルとなる文章の理解

教科書には「化石燃料に代わる電力源」について「大介」が太陽エネルギーを紹介している文章がある。「大介」の紹介文では、太陽エネルギーを様々な方法で電気に変えていることが例として挙げられている。モデル文を読むことを通して、内容理解だけでなく、自己表現の際に活用できる表現を知り、文章構成を考える際の参考として提示し、指導の手立てを行った。

Hello, everyone. Today I'm going to talk about solar energy. The sun has given us a lot of energy for every long time. The rays that we get from the sun produce solar energy. We can change solar energy to electricity in different ways. First, sunlight is changed to electricity by solar cells. This system is used to power clocks, calculators, and even cellphones.

Second, to produce electricity, we can use the steam that solar heat makes. It turns turbines in power stations. So, I think solar energy is useful for our lives in the future.

② テーマを決め、マッピングの作成

何についての紹介文を書くのか、事前にインターネットを利用して調べ学習を行って情報集めを行い、テーマを設定していった。その後、マッピングを作成し、テーマから派生するキーワードをできるだけ多く書き、紹介文を書くための思考整理を行った。

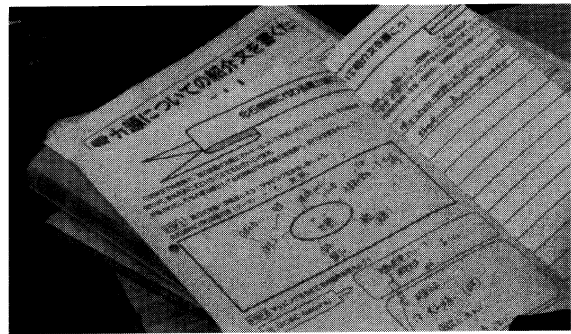


図1 マッピングの様子

③ 紹介文の下書き

「化石燃料に代わる電力源」についてマッピングをもとに文章構成を考えていった。

opening, body, ending の3部構成で文章を書くように指導を行った。その後、マッピングや文章構成を基に紹介文の下書きを作成していった。どの生徒も分からない単語などは積極的に辞書を使って調べたり、ペアで教え合ったりしながら文章の下書きを行っていった。

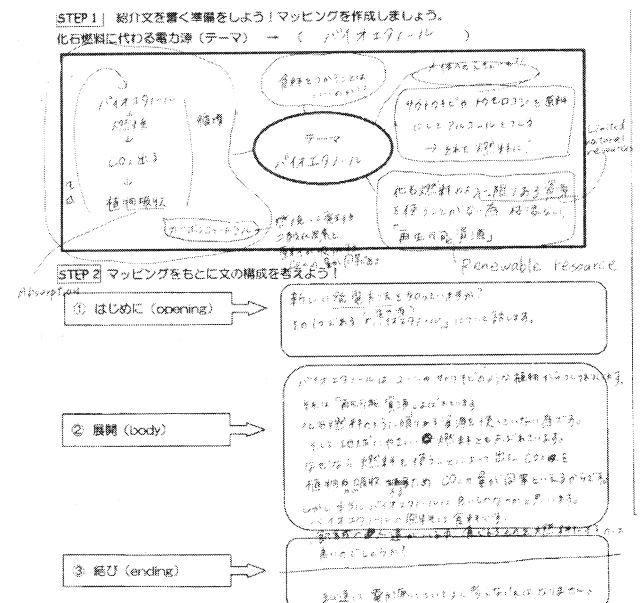


図2 ワークシート

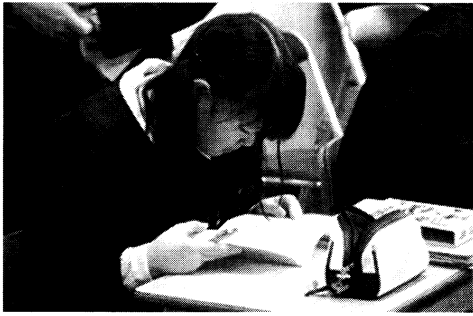


図3 下書きの様子①

④ 高め合い活動（ピア・フィードバック）

生徒が化石燃料に代わる電力源についての紹介文を書いた後、高め合い活動として「ピア・フィードバック」を行った。グループの中でそれぞれが書いた紹介文を読み合い、より良い紹介文に仕上げていくために4つの視点で紹介文を読み合い添削していった。

〈ピア・フィードバックの視点〉

- ① 分量
- ② 単語、冠詞、時制などの文法や文構造が正しいか
- ③ まとまりのある文章になっているか
- ④ 良い表現が含まれているか

生徒は4つの視点に沿って、グループ内のメンバーの紹介文を読み、意見を交流していった。4つの視点について書く以外に、文章を読んだコメントを書いていった。生徒は、その活動を通して、自分の紹介文を再度読み直し考え、さらに文を加えたり表現を変えたりしてより良い紹介文に仕上げていった。

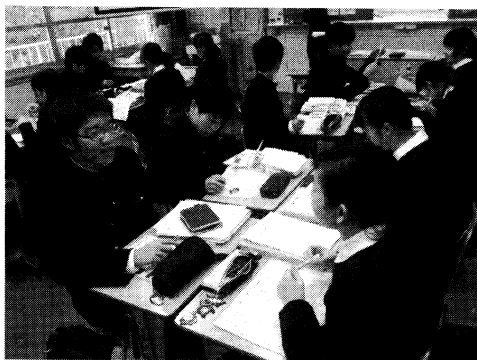


図4 高め合い活動の様子

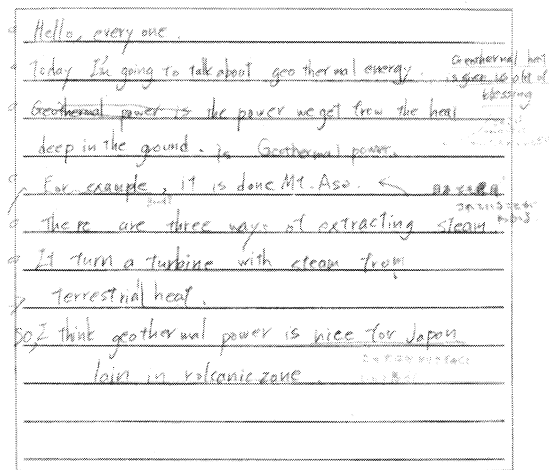


図5 コメントが書かれたワークシート①

次に生徒が高め合い活動（ピア・フィードバック）の中で書いた具体的なコメントを挙げる。

- ・スペルミスがなくし、もう少したくさん書けたらいいね。
- ・**First** や **Second** などが使われているため読むときに大変読みやすかった。
- ・ナンバリングされていてわかりやすいと思います。
- ・構成、具体例ともにとっても良くて読みやすかったです。
- ・4文目と8文目をつなげてみるのはどうかな？
- ・授業で学習した文を使いながらも自分の言葉で書くことができているすごい！
- ・もう少し具体的な理由を挙げたほうが良い。
- ・最後にそのテーマに関しての自分の考えを書いた方が読んでいてわかりやすいと思う。

⑤ 書き直し (Rewrite)

高め合い活動（ピア・フィードバック）で交流した意見をもとに紹介文完成に向けて原稿を書き直していった。下書きの段階では、内容的に十分ではない生徒の作品がこの活動を通して分量が増えただけでなく、内容的に表現の幅が増えたりした。また、ピア・フィードバックをすることでグループの中から分からない表現や単語について教えてもらうことができ、一人で書くよりも書くこ

とへの意欲がより高まったのではないかと考える。さらに他者の英文を読むことでテーマに対する知識も深まり、より書くことへの力が高まるよりよい活動になったと考える。

次に、この実践を通しての生徒の感想を述べる

- それぞれが考えた電力源についてから同じトピックで紹介文を書いたとしても文の構成や表現を変えることによってその人オリジナルの紹介文となりおもしろいと感じた。
- バイオマス発電など新しい発電方法について知るきっかけができて興味がわいた。
- 電力源という観点からその人のさまざまな考えやそれぞれのエネルギーに対するとらえ方などを知ることができた。
- 友達の書いた紹介文を読んで、自分の書いた紹介文と比べて読むことができ、自分の紹介文の内容をもっと深めることができた。
- 化石燃料に代わる電力源について調べたことを相手に伝えようとする表現が学べた。
- 水力発電や地熱、バイオマスなどの特徴・メリットが分かった。
- 自分と違う電力源の紹介文では今まで知らなかったことが聞けるのでおもしろいし、逆に自分と同じ電力源の紹介文でもどこをどのように伝えているのか理解できたし、自分と同じところや違うところを発見することができた。
- ピア・フィードバックをグループでして、友達からコメントをもらったりして、最初に書いた文よりもより多く最終的には文章を書くことができた。友達から分からないところは教えてもらったり、ヒントを得ることができたりしたのでとても良い活動をすることができた。

次の図6・7は、書き直した後の生徒の原稿である。ピア・フィードバックを受けて「化石燃料に代わる電力源」について事実やそれについての情報ばかりを述べるのではなく、それに対する自分の考えなどを友達のコメントやヒントから具体的に書き加えることができていた。下書き段階で

分量が少ない生徒もこの活動を通して、再思考し文全体の文構成を見直して文章をよりまとまりのあるものに仕上げている。

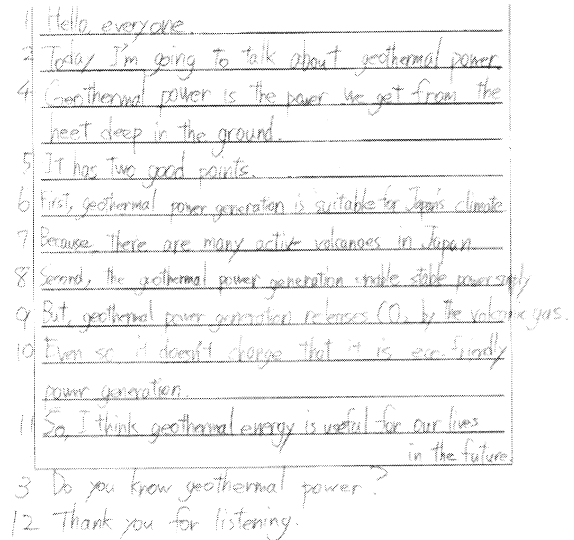


図6 生徒作品①

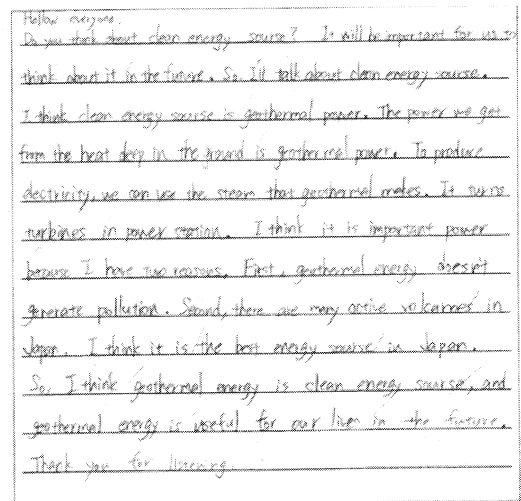


図7 生徒作品②

4 成果と課題

今回の研究を通しての成果は以下のことが挙げられる。

• 書く力を高めるために、テーマに沿って マッピングを作成したことは、紹介文を作る際に思考を整理することに役立ち、文章構成を考える際にも効果があった。

• ピア・フィードバックを通して、語彙間違いや文法間違いについて他者から添削してもらい、気づくことができるだけでなく、文章全体の内容がまとまっているかなど他者の目から見ても

らうことができた。

また、コメントを書き込むことで、下書きで書いた文章の内容よりも表現豊かで充実した内容の文章を書くことができた。

・他者の書いた紹介文を読むことで、他者の考えを知ることができ、新しい発見があり、自分の知識の幅を広げ、書くことへつなげることができた。

また、「化石燃料に代わる電力源」についてより興味・関心を引くことができた。

さらに、生徒に英文を「書くこと」への意識調査を行ったところ表1のような結果が表れた。

表1 生徒アンケートの肯定的回答の変化

質問内容	事前	事後	事後 - 事前
英語の授業で、まとまった英文を書くことは好きですか。	50.0%	75.5%	25.5%

上記の結果から、高め合い活動を行う前の意識調査では、英文を書くことへの肯定的評価が50.5%と約半数であったのに対して高め合い活動を行った後は、75.5%と意識の向上が見られた。このことから、高め合い活動を通して英文を書くことへの意欲も向上したことが分かる。

一方、課題として、ピア・フィードバックでは、視点が4つもあったため基準が多く、語彙間違いや文法間違いに対する添削はあったものの、「その文章をより良くするために」という視点でコメントを書いている生徒にばらつきがあったことである。

また、「まとまりのある紹介文を書くための力の育成」については、紹介文を書く際に紹介文例を提示したことによって文構成において例と同様な構成で紹介文を書く生徒が20人にのぼり、生徒のオリジナル性が少し欠けてしまったことが挙げられ、今後指導を改善していきたいと考える。

5 おわりに

ピア・フィードバックによって英文を書くことが苦手な生徒も友達と一緒に学習することを通し

て、アイデアが膨らみ、一人ではなかなか書けなかった英文も書けるようになり、自信を少しつけることができるようになった。また、英文を書くことを通して新たな語彙や表現を知るきっかけとなり英語学習への意欲づけにもなる活動であると考える。さらには、他者の英文をたくさん読むことで多読の効果が有り、Inputが増えることによつて書くことへの力も高まると考える。今後も様々なトピックを与え、「内容的にまとまりのある文章を書く活動」を授業の中に仕組み、英語で文章を書くことの楽しさを感じられるような授業づくりに励み、「書くこと」への力を育成していきたいと考える。

<注および引用文献>

- 1) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説 外国語編」, p. 19, 2008, 開隆堂出版.
- 2) 松尾砂織・木坂香織・米倉智久・檜葉みつ子・柳瀬陽介・松宮奈賀子：「平成 27 年度幼少中一貫教育研究会外国語部会研究構想」, 2015.
- 3) 大井恭子：「パラグラフ・ライティング指導入門—中高での効果的なライティング指導のために」, 2008, 大修館書店